

英 語 科

報告者：梁島 理雄

1 課 題

今年度も「読解力の育成」と「アウトプット（話す・書く・行動する）」というテーマが課せられ、具体的には、「(定義の理解など)教科書を読んで理解できる力・表現できる力」を育成することが示された。本校の生徒の傾向として、英語の読解力の基盤となる語彙力や文法の理解度に課題が見られ、英語に対する苦手意識を持っている生徒も多い。これらを踏まえると、本校の課題である読解力の向上に向けて、一人1台端末を活用して語彙力や文法の学習を効果的に行いつつ、英語の学習意欲や自己肯定感を高められるアウトプットの機会を設定することが求められる。

2 目 標

高等学校学習指導要領（平成30年告示）において、「日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする」ことが目標として掲げられている。この内容を踏まえた上で、「(定義の理解など)教科書を読んで理解できる力・表現できる力」の育成を図る。

3 具体的方策

まず、英語に対する根本的な苦手意識を改善していくために、kahoot!というゲーム型学習用ウェブサイトを活用することで、学習意欲の向上を図った。その中で、語彙のクイズや文脈にあった適切な単語を選択する問題、並び替え問題などを繰り返し出題することで、動詞の時制や文型など読解力の基盤となる語彙や文法の確かな定着を図った。

また、教科書本文の内容は、一人1台端末からMicrosoft WhiteboardとMicrosoft OneNoteを中心に活用し、授業の中で対話的に学びを深める機会を多く設けた。実際に、「教科書を読んで理解できる力」を育むためには、Microsoft OneNoteの画面共有を使い、思考場面を多く設定することで、生徒の英語力に応じて対話的に理解を深められる授業を実践した。また、「教科書を読んで表現できる力」を育むためには、Microsoft Whiteboardを使い、リアルタイムでの英作文のアウトプット活動やペアワークでのQ&Aアクティビティ、穴あきリーディング、本文の「教え合い」活動などのアウトプットを通して、生徒同士で考えを深めたり、表現したりすることができるようファシリテートした。

4 結 果

定期考査や単語テストにおいて、読解力の基盤となる語彙や文法に関する問題の正答率がやや上昇した。また、ペアワークでのQ&Aアクティビティにより、記述問題の正答率も上昇し、問題に対する答え方を理解できる生徒が増えた。以上のことから、一人1台の端末を効果的に使うことで、目標としていた「(定義の理解など)教科書を読んで理解できる力・表現できる力」の育成に一定の成果を残すことができた。

5 次年度に向けての課題

今年度、どのクラスの生徒も意欲的に「穴あきリーディング」活動や本文の「教え合い」活動などに取り組む傾向があったが、生徒によって点数の良し悪しが大きく分かれた。これは、試験勉強への取り組みによる結果とも考えられるが、ペアワークによる学習の成果が、各ペアの基礎学力や表現力に依存することも考えられる。そのため、ペアワークによる学習に依存しすぎず、机間指導の中で個別に課題を設定し、一人ひとりの理解度を確認する機会を設けていくことが課題として挙げられる。また、これらの活動を通して、生徒が読解力の向上を実感できる場면을精査し、到達度を確認していく必要がある。